

令和7年度

坂城町高校生タイ国研修事業 研修レポート



令和8年3月22日～26日

坂城町高校生タイ国研修事業の実施にあたって

坂城町高校生タイ国研修事業は、平成27年度の開始以来、本町の次代を担う高校生が、世界で活躍する郷土企業の姿とタイ国の文化を直接肌で感じる貴重な機会として実施してまいりました。

この研修では、タイに進出している町内企業の製造現場を視察することで、本町が誇る「ものづくり」の技術力と、グローバルなビジネス展開の最前線を深く学ぶことができます。また、異国の地で多様な価値観に触れ、現地の方々と交流することは、高校生の皆さんの視野を広げ、国際的な感覚を養うかけがえのない財産になると確信しております。

新型コロナウイルス感染症の影響による中断を経て、令和5年度に事業を再開し、令和7年度には3サイクル目の幕開けとなる研修を実施いたしました。今回の研修では、町内企業3社への視察に加え、在タイ日本国大使館での見学、そして現地の歴史と文化を体感する異文化交流など、充実した行程を過ごしました。

5月21日に行われた研修報告会では、参加した8名の皆さんから、現地での体験や企業の方々との交流を通じて得た多くの気づきについて、熱意あふれる素晴らしい発表がありました。

今回の研修が、皆さんの将来の展望を広げる一助となり、さらには坂城町の未来を担うリーダーとして羽ばたくための大きな糧となることを願っております。

最後に、本事業の実施にご理解とご協力を賜りました企業各社をはじめ、すべての関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

令和8年(2026年)5月

坂城町長 山村 弘



後列左から2番目以降、小熊、中畠、若林、宮崎、吉川、成澤、大橋、池田（敬称略）

（出発前に、しなの鉄道坂城駅にて）

参加者名簿

| | 職名 | 氏名 | 読み仮名 | 備考 | ページ |
|---|-----------------------------------|-------------------------------|-----------|------------|-------|
| ① | 企画政策課長 (Manager) | 長崎 麻子 (ASAKO NAGASAKI) | ながさき あさこ | 団長 | - |
| ② | 企画政策課 係長 (Assistant Manager) | 宮原 卓 (SUGURU MIYABARA) | みやばら すぐる | 事務局 | - |
| ③ | 建設課 主事 (Staff) | 西沢 安理沙 (ARISA NISHIZAWA) | にしざわ ありさ | 事務局 | - |
| ④ | 屋代高校 1 年生 (High schooler) | 池田 早良 (SARA IKEDA) | いけだ さら | | 4~8 |
| ⑤ | 屋代高校 1 年生 (High schooler) | 大橋 茉奈 (MANA OHASHI) | おおはし まな | | 9~13 |
| ⑥ | 上田染谷丘高校 2 生 (High schooler) | 小熊 千奈 (CHINA OGUMA) | おぐま ちな | リーダー | 14~18 |
| ⑦ | 上田千曲高校 1 年生 (High schooler) | 中嶋 光稀 (KOKI NAKAJIMA) | なかじま こうき | | 19~25 |
| ⑧ | 長野南高校 1 年生 (High schooler) | 成澤 葵 (AOI NARUSAWA) | なるさわ あおい | | 26~31 |
| ⑨ | 長野南高校 1 年生 (High schooler) | 宮崎 星七 (SENA MIYAZAKI) | みやざき せな | | 32~37 |
| ⑩ | 坂城高校 1 年生 (High schooler) | 吉川 花梨 (KARIN YOSHIKAWA) | よしかわ かりん | サブ リーダー | 38~45 |
| ⑪ | 上田西高校 1 年生 (High schooler) | 若林 昴来 (SUBARU WAKABAYASHI) | わかばやし すばる | | 46~52 |
| ⑫ | 近畿日本ツアーリスト添乗員 (Tour Conductor) | 加々美 美彩 (MISAE KAGAMI) | かがみ みさえ | 添乗 | - |

※学年・職名は3月の研修時点

坂城町タイ国研修を振り返って

池田 早良



〈はじめに〉

私は3泊5日という長いようで短かった研修を終えて、自分自身が成長することができたと思います。初めての海外でとても不安だったのですが、温かい現地の方々や、一緒に研修に参加した仲間をはじめとしたたくさんの方々のおかげで、とても充実した研修にすることができました。ありがとうございました。

〈企業視察〉

○株式会社 都筑製作所

都筑製作所では、自動車やショベルカーといった大型機械の部品を主に作っている会社だそうです。坂城町の工場よりも工場の規模が広いように感じました。また、エアコンのついた作業場が多かった印象を受けました。暑いタイでも従業員にとって働きやすいような職場でいいなと感じました。

タイの工場で作られた部品は、日本の企業だけでなく、タイの企業向けの部品も作っているそうです。部品は作るだけでなく、しっかりテストをしてから出荷することで、品質の維持につなげているそうです。また、カーボンニュートラルな生産を実現するために、タイの工場では太陽光パネルの設置をしているとお聞きし、環境にも配慮した生産をされていてすごいなと感じました。こういった一つ一つの企業の方々の配慮が、きれいな環境へつながっているのだなと感じました。

たくさんのお土産もありがとうございました。

○有限会社 水野製作所

水野製作所では鑄造用鑄型製作を行っている会社で、製型屋の中では規模が大きいほうだそうです。坂城町の工場と比べ、タイの工場のほうがとても大きく、働いている方も多かったです。また、タイでは日本人一人以外は全員現地の方々が働いていて、通訳の方はいらっしゃらないと聞き、とても驚きました。「言語が分からなくても、感じる」とおっしゃっていたのがとても印象的でした。そして、事業内容だけでなく、これからの人生に役立つアドバイスもいただきました。「将来の夢の実現に向けて目的を決め、それに向けて準備を着実にし、ゴールを鮮明に思い浮かべることによって、夢は必ず実現することができる。」と教えていただきました。夢を夢だけで終わらせずに、実現するために努力をしていけるような人になりたいと思いました。



また、水野製作所の社員食堂で、お昼にガパオライスをいただきました。辛さは控えめにしてくださってはいたのですが、とても辛かったです。しかし、辛味の中にうまみも感じられておいしかったです。現地の方の食文化を感じることができ、貴重な経験になりました。食堂の方に気を遣っていただき、タイのアイスもいただきました。日本のアイスとほとんど変わらず、甘くておいしかったです。突然の訪問にも関わらず、温かく迎え入れてくださった方々、本当にありがとうございました！

○株式会社 アルプスツール



アルプスツールではツーリングとバーフィードという機械を生産している会社だそうです。例年、タイのスラナリ工場を見学させていただいていたのですが、今回はアユタヤ工場のほうを見学させていただきました。アユタヤ工場の入口のところには、桜の木のオブジェがありました。お客さんから好評だとお聞きし、日本を象徴する花である桜がタイで受け入れられていることに嬉しく感じました。

工場では日本に輸送するものとASEANの国に輸送するものどちらも作っているそうです。品質の良いものを輸送するために、チェックを念入りに行っていて、すごいなと感じました。また、現地の工場の方々にタイ語を少し教えていただきました。タイ語を知ることができたことで、その後のタイでの生活がより一層楽しめたと思います。明るい従業員さんが多く、アットホームな職場というような雰囲気が伝わってきました。ありがとうございました。

〈在タイ日本国大使館〉

在タイ日本国大使館は、外務省の特別な機関です。とはいえ、大使館で働いている人のおよそ半分が外務省職員で、残り半分は他の省の方が働いているそうです。外交交渉や情報収集、在外選挙といった幅広い役割を担っています。また、タイで日本の文化を広げるといった活動もしているそうです。後に、タイのショッピングモ



ールに行った際、日本のお菓子をたくさん見かけました。これも大使館の方々から日本文化を広げようと尽力してくださっている結果だと感じました。タイは日本と似ているところが多い国です。そのため、日本の文化はタイの人に受け入れられやすいのかなと思いました。

〈異文化体験〉

○アユタヤ遺跡

二日目の夜に、外からアユタヤ遺跡のライトアップを鑑賞させていただきました。歴史ある立派な遺跡が色とりどりのライトに照らされていて、幻想的でした。

アユタヤ遺跡は三日目に見学させていただきました。遺跡には、かつて多くの仏像があったのですが、ミャンマーとの戦争の際に、限られた仏像の中にある金を目当てに頭だけがなくなっている像や、崩れてしまっている像を見ました。しかし、戦争があったのにもかかわらず、遺跡が良い状態で保たれていることがすごいなと感じました。有名なワット・マハタートにある木の根に埋まった仏頭とも写真を撮ることができました。

○ゾウ乗り体験

アユタヤで、ゾウ乗り体験をさせていただきました。アユタヤ遺跡の見学をさせていただいたときに、ゾウはかつて王様が乗る乗り物だったという話をお聞きしたので、気になっていました。たしかに、とても快適で、ゾウを選ぶ理由がわかるような気がしました。

私が乗ったゾウは他と比べても比較的大きめのゾウだったため、乗るのがとても怖かったです。最初は慣れませんでしたでしたが、慣れてくると一種のアトラクショ

ンに乗っている感じがして、楽しかったです。ゾウの上からの景色は最高でした。

○バンコク市内観光

四日目にワットアルン、ワットポー、ワットプラケオ、王宮などを見学させていただきました。どの建物も、とても豪華な見た目をしていて、レアメタルの多く産出されるタイならではの感じました。



〈おわりに〉

上記以外にも、タイの学生の方とショッピングをしたり、タイ料理を楽しんだり、初めて夜市を体験させていただいたり、貴重な経験をさせていただきました。

タイの夜市はすごくきらきらしていて、お祭りのようでした。おいしそうな料理から服まで売っていました。初めて見るような食べ物もあって興味深かったです。

研修中に食べたタイ料理は、どれも「異国」という感じの味がしました。辛い食べ物がやっぱり多かったです。また、日本と比べて料理の品数が多く、量も多くて、食べきれなかったのですが、味はとてもおいしかったです。

ショッピングでは、私自身英語があまり得意でないこともあり、とても不安だったのですが、タイの学生さん達がたくさん話しかけてくれたり、現地のことを丁寧に教えてくれたりしたおかげで、とても楽しむことができました。普通に観光している中でも、遠くから知っている英語が聞こえてきたりして、学校の座学の重要性を改めて実感でき、これからも頑張ろうと思いました。



これから私は今回の研修を生かし、積極的なコミュニケーションを心掛け、失敗を恐れず、いろいろなことに挑戦していけるようにしたいです。

研修の実現に尽力してくださった方々、快く送り出してくれた家族、現地で手厚くサポートをしてくださった方々、本当にありがとうございました。

タイ王国研修を通して

大橋 茉奈

○はじめに

この度、タイを訪れるという大変貴重な機会をいただき、現地の文化や生活、街の様子などを実際に見て、多くのことを学ぶことができました。日本とは違う価値観や習慣に触れることで、新しい発見や貴重な経験をすることができました。教科書や映像だけではわからない現地の空気や人々の暮らしを直接肌で感じることができたのは、私にとってとても大きな学びになりました。

また現地で過ごした時間の中では、言葉や文化の違いに戸惑うこともありましたが、それ以上にタイの人々の温かさや親切さに触れ、心に残る思い出をたくさん作ることができました。実際に交流する中で、お互いの違いを理解し合う大切さや、相手を思いやる気持ちの大切さについて学ぶことができました。こうした経験は、これからの生活や将来にも活かしていきたいです。

さらに、このような素晴らしい機会を得ることができたのは、企画や準備をしてくださった関係者の皆様、そしていつも支えてくれた家族のおかげです。多くの方々の支えと協力があったからこそ、安心して現地で学び、さまざまな体験をすることができました。心より感謝しています。今回の経験で得た学びや思い出を大切に、皆様に少しでも恩返しができるようにしていきたいです。

この報告書では、タイで体験したことや学んだこと、感じたことを振り返りながら自分にとってどれほど貴重な経験だったかをまとめていきたいと思います。



○企業視察

【株式会社都筑製作所】

都筑製作所さんは自動車部品や建設機械用の油圧機器などを主に作っている製造業の会社です。工場内を見学させていただいたのですが、とても広く、普段工場内を見る経験が少なかったのもとても驚きました。実際に作業をしている従業員の方や動いている機械を見ることができ、面白かったです。

また、お話を伺っているときに、以前のタイでは、若者が借金をして車を買うケースが多かったそうですが、現在では借金がしづらくなり、所得がなければ車がいづらくなってしまったという、自動車業界に大きなダメージを与える出来事があったそうです。街中を移動しているときに、中国企業などの車の宣伝が大々的にされているのを目にしていたので、タイの自動車市場も大変だなと思いました。



【有限会社水野製作所】

水野製作所さんは樹脂を金型に流して、部品を作る加工（射出成形）を利用し精密なプラスチック部品を製造している会社です。樹脂を加熱して溶かし、金型

に流し込んで成形することで、さまざまな製品が作られているそうです。金型のわずかなずれや傷でも製品の品質に影響を与えてしまうため、とても丁寧な作業が必要だと思いました。

また、水野さんのお話では、より鮮明に未来の目標を立てることがとても大事だということを教えてもらいました。強く未来の目標を立てていれば、20～30年後にはその想像していた姿になれると熱く語っていただき、目標を持つことの大切さを改めて実感させられました。

そして、水野製作所さんでは食堂で昼食としてガパオライスをいただきました。現地の方が普段食べているものより辛さを抑えて作っていただいたのですが、びっくりするほど辛く食べるのがとても大変で、タイ料理の辛さの恐ろしさをここで強く感じました。



【株式会社アルプスツール】

アルプスツールさんは、バーフィーダーなどを製造している会社です。バーフィーダーは、棒状の材料を自動で工作機械へ送り出す装置で、工場の生産効率を高めるために重要な機械です。普段は目にすることのない機械ですが、ものづくりの現場を支える大切な役割があることを知りました。部品の加工や組み立て、動作確認、品質検査など、一つひとつの作業を丁寧に行うことで、安全で正確に動く製品が作られていました。今回の訪問を通して、製品そのものだけでなくそ

れらを支える機械の大切さを学ぶことができました。また、従業員の方がとても丁寧な工場内を案内してくださりととても嬉しかったです。



○在タイ日本国大使館視察

在タイ日本国大使館では、大使館の役割などについて教えていただきました。正直、大使館がどういった場所か詳しく知らなかったのですが、タイと日本に関係するようなことを幅広く行っていることを知り驚きました。お話を聞いていると、日本人がタイで不当な扱いを受けないようにしたり、世界を相手に情報収集をしたりと、仕事の場所が一つの会社のオフィス内ではなく、世界をオフィスとして働いているという感じがしてすごいなと思いました。

また、タイの方は時間厳守という雰囲気ではなく、どちらかというとゆったりとしていて、時間に対する許容範囲が広いというお話が、それぞれの国の国民性を感じられて、とても面白かったです。

日本大使館があるからこそ、私たちは安全に海外を訪れることができることがわかったので、感謝したいなと思いました。



○おわりに

今回のタイ研修を終えて、普段の生活では経験できない出来事や出会いを通して、多くの刺激を受けました。環境が変わることで見えるものや感じることも変わり、自分の考え方を見つめ直すきっかけになったと感じています。現地で過ごした時間は、楽しい思い出であると同時に、自分自身を成長させてくれる大切な時間となりました。

また、慣れない場所や言葉の中で過ごしたことで、相手に伝えようとする気持ちや、周りをよく見て行動することの大切さを学びました。小さなことでも挑戦してみることや、自分から一歩踏み出すことの大切さにも気づくことができました。こうした学びは、これからの日常生活の中でも役立てていきたいと思えます。

さらに、この研修では多くの人との関わりの中で、支え合うことや協力することの大切さも改めて感じました。一人ではできないことも、周りの人と力を合わせることで乗り越えられると実感しました。人との繋がり大切さを学べたことも、今回の大きな成果の一つです。最後に、繰り返しにはなりますが、このような貴重な機会を与えてくださった関係者の皆様に感謝を伝えたいです。本当にありがとうございました。



坂城町高校生タイ国研修

小熊 千奈



○はじめに

私は3月22日から3月26日までの5日間、坂城町高校生タイ国研修事業に参加し、タイ国進出企業の都筑製作所、水野製作所、アルプスツールの3社を視察させていただきました。そして、企業視察の後には在タイ日本国大使館も訪問させていただきました。

私がこの研修に参加した理由は、昨年、信州つばさプロジェクトを利用して台湾研修に行ったことがきっかけです。台湾に行った時も、自分の知らないことばかりで、発見の多い研修になりました。だからこそ、実際に海外に行くことは、自分にとって視野を広げるための良い経験になると思い、参加しました。

初日は11時に羽田空港を出発し、16時にバンコクに到着しました。空港について外に出ると、すごく蒸し暑くて、思わずスマホで気温を見ると32℃でした。坂城は-4℃だったので、寒暖差に驚きました。

空港からホテルまでバス移動しました。車窓から外を眺めていると、結構日本のチェーン店が多いことに気がつきました。特にセブンが多く、タイで見かけたコンビニはほとんどセブンでした。ホテルに着いて夕食を食べました。美味しかったのですが量が多くて食べきれませんでした。

○企業視察

【都筑製作所】



都筑製作所さんでは坂城町の工場と同じく、HONDA社や建設企業のKOMATSU社に卸す部品を製作していました。日本とは違い、建設関係の企業へ卸すことが多いようですが、日本へも半分くらい輸出してるそうです。

また、車の部品は製造しているものの、以前よりも減ったとおっしゃっていました。タイでは、借金をして何かを買うことが多く、それによって車を買っていた人も多かったそうです。しかし、最近では法律でローンの規制が強くなってしまったため、車の購入者が減ってしまったそうです。車の部品を近くで見たり、知ったりすることはあまりないので、面白かったです。

【水野製作所】



水野製作所さんでは社長の水野さんにお話を聞きました。タイの工場は去年で30年目になり、今は日本人が水野さんしかいないそうです。

水野製作所では、ホームページや営業などによる会社紹介は行っていません。その代わりに、もともと勤めていた方などからの紹介を通じて顧客を得ているそうです。また、素材を選ぶ際には、納期や品質といった要素を重視しており、値段で決めることはないとおっしゃっていました。

水野製作所では「サバイサバイ」（タイ語で快適の意味）の状態の会社を維持できるように努力しているそうです。水野さんからは「将来を自分でしっかり考えて、そこにたどり着くための段取りを明確にすると、実現可能性が高まる。」と教えていただきました。また、社食でガパオライスをいただきました。辛さを抑えたものをいただいたのですが、すでにガパオライスの中に唐辛子が見えて、見るからに辛そうでした。予想通りすごく辛かったです。

【アルプスツール】

アルプスツールさんでは、棒状の材料(バー材)を加工するバーフィーダを製作していました。医療機器や半導体、自動車部品で使用されており、1週間で平均8台、月に最大で40台製作するそうです。1台数千個の部品が必要で、そのほとんどをタイで調達していると言っていました。また、部品単体で輸出することもあるそうです。それから、タイ語の挨拶も教えていただきました。とても楽しい企業視察でした。お土産でマグカップとお菓子もいただきました。



○在タイ日本大使館

在タイ日本大使館では外務省の行っていることと、外交官の仕事についての話をお聞きしました。外務省は日本と世界の安全を実現させるために、対外経済関係を良好にしたり、経済協力や文化・国際交流を行なったりしている政府組織です。そのために、外交交渉や在外法人の保護、国際的な枠組みへの参加などを主な業務としているそうです。

外交官というのは、その目的のために派遣される、外交旅券を持ち、在外公館などに正式に派遣された人物のことを言います。日本大使館は今、150カ国223公館もあるそうです。



現在はウクライナ・中東をはじめとする厳しい国際情勢や、途上国・新興国の発展など、多様化する世界への対応をしているとおっしゃっていました。

急速に変化していく現代では、時事・社会問題に興味を持ち、日本との比較のためにも、積極的に海外と接することがおすすめだと教えていただきました。

【おわりに】

3日目、4日目は、世界遺産であるアユタヤ遺跡を散策したり、王宮を見て回ったりしました。遺跡や王宮の観光では現地ガイドさんの解説を聞きながら、色々な所を見て回る事ができました。

遺跡では、壊された仏像や崩壊してしまった壁が至る所にあり、戦争の激しさを感じました。特に仏像はほとんど頭がなくて「そこまでやるのか」と驚きました。

王宮では、まず遠くからでもわかる煌びやかさに驚きました。金箔とガラスで覆われていて、どれだけお金がかかっているのだろうと思っていたら、現地ガイドの方に「50年周期で全部張り替える」という話を聞き、さらに驚きました。次は2032年に行くと1番綺麗だそうです。タイミングよく衛兵交代式があり、行進を見ることもできました。

現地高校生との交流では、英語を使ってコミュニケーションを図りました。自分が伝えたいことが上手く伝えられず苦戦しましたが、身振り手振りを使って楽しくショッピングができました。授業では喋ることを第一に考えている訳ではないので、もっと伝える英語を勉強しなきゃいけないなと強く感じました。

この研修では、飛行機が遅延するなどのトラブルもありましたが、色々な人の助けによって楽しく良い経験になりました。また機会があったら海外に行きたいです。



タイの研修で学んだこと

中 畠 光 稀

はじめに

今回のタイ研修に参加して、私の心に一番強く残っているのは、タイの人たちが持つ圧倒的なパワーと温かな優しさです。出発前は「英語が完璧じゃないのに通じるのかな」「現地の生活に馴染めるだろうか」と不安ばかりが膨らんでいました。しかし、実際に現地に足を踏み入れてみると、片言の言葉やジェスチャーだけでも、笑顔で一生懸命に理解しようとしてくれるタイの人々の姿がありました。その温かさに触れる中で、コミュニケーションにおいて一番大切なのは、正しい文法や流暢な発音よりも、まずは「相手とつながりたい」という真っ直ぐな気持ちなのだとは強く実感しました。

この研修中、私が驚いたのは、タイの豊かな食文化です。中でも忘れられないのが、本場のガパオライス、タイスキ、そしてカオマンガイです。最初に食べたガパオライスは、運ばれてきた瞬間からバジルの爽やかな香りと唐辛子の刺激的な匂いが鼻を抜け、食欲をそそりました。一口食べると、ナンプラーのコクと鶏肉の旨みが口いっぱいに広がり、その後に予想以上の辛さがやってきて驚きましたが、半熟の目玉焼きを崩して混ぜると味がまるやかになり、気づけば夢中でスプーンを動かしていました。また、みんなで一つの鍋を囲んだタイスキは、現地の学生たちとの距離をぐっと縮めてくれる料理でした。魚介や野菜の出汁が効いたスープに、少し甘辛いタレをつけて食べるスタイルは、日本の鍋とはまた違う面白さがありました。そして、ランチで食べたカオマンガイは、シンプルながらも奥深い味わいに感動しました。鶏の旨みがしっかり染み込んだご飯と、しっとり柔らかいお肉の相性が抜群でした。



研修中の思い出は食だけでなく、現地の高校生との交流も非常に濃いものでした。特に楽しかったのは、彼女たちと一緒にショッピングに出かけたことです。最初は緊張してお互いにぎこちなかったのですが、ショッピングモールで流行のアクセサリーを手にとったり、お揃いの雑貨を選んだりしているうちに、いつの間にか学校の友達と放課後に遊んでいるような楽しい感覚になっていました。流行っている音楽やアイドルの話、学校生活の悩みなど、話してみれば国が違っても同じ高校生として共感できることがたくさんあるのだと気づかされました。言葉が完璧に通じなくても、一緒に笑い合える時間がこれほど幸せだとは思いませんでした。

さらに、タイと言えば欠かせない「象乗り」も、自分にとっては忘れられない大冒険になりました。まず、間近で見る象は、動物園の柵越しに見るのとは訳が違う圧倒的な大きさで、それだけで「本当にこれに乗るのか？」と驚きました。専用の台から背中の椅子に移る時も、象が動くたびにズシッ、ズシッと地響きのような振動が伝わってきて、心臓がバクバクでした。いざ出発すると、視界

が急に地上3メートルくらいまで上がって、普段見ている景色とは全く違う世界が広がりました。

ふと象の背中に触れてみると、皮膚は岩みたいにゴツゴツしていて、生えている毛はまるで針金みたいに硬くてチクチクしました。その温かさや、力強く地面を踏みしめる筋肉の動きがダイレクトに伝わってきて、「今、自分は生き物の上に乗っているんだ」という実感が湧いてきて、言葉にできないくらい感動しました。象の背中から見下ろすタイの自然は本当に綺麗で、遠くまで見渡せる景色の中に吹く風がとても気持ちよかったです。日本では絶対にできないこの体験を通して、自然の大きさや動物の力強さを肌で感じることができ、なんだか自分の悩みや考えがちっぽけに見えるくらい、心がスッとした気がします。

街に出れば、夜遅くまで賑わう屋台の活気、日本では考えられないほど多いバイクの列、そして空を突くように豪華で荘厳な寺院など、見るものすべてが新鮮で刺激的でした。日本にいたら「当たり前」だと思って疑わなかったことが、海外では全然違っている。そのことを肌で感じ、自分の見ていた世界がいかに狭いものだったかを思い知らされました。

○企業視察

【株式会社都筑製作所】

都筑製作所さんで一番驚いたのは、工場の広さと、そこで動いている機械の数です。自動車の重要なパーツを作っていると聞きましたが、ミリ単位の精度が求められる作業を、タイの方たちがものすごい集中力でこなしていました。もっと淡々と作業しているイメージがあったけれど、現場は活気にあふれていて、日本企業の技術がこうして海外の大きな工場で形になっているのを見て、感動しました。

また、案内してくれた方が「タイの人たちと協力して、一つのものを作り上げる大切さ」について話してくれたのが心に残っています。言葉や文化が違って、良い製品を作るという同じ目標に向かって、日本人もタイ人も関係なく一丸となって働いている姿は、とても格好よかったです。

ただ機械が動いているのを見るだけでなく、そこで働く人たちのプライドや、日本とタイの強い繋がりを肌で感じることができました。普段何気なく乗っている車も、こうして海を越えた場所でたくさんの人の手によって作られているんだと知り、ものづくりに対する見方がガラッと変わりました。この視察を通して、将来「世界を舞台に働く」ということのイメージが、自分の中で少しだけ具体的になった気がします。



【有限会社水野製作所】

水野製作所さんの工場内では、自動車やカメラに使われる精密なプラスチック部品が次々と作られていて、その正確な動きに圧倒されました。案内してくれた方から、この小さな部品一つひとつが世界の製品を支えているという話を聞いて、地元の技術がこんなにも遠いタイの地で必要とされているんだなど、自分のことのように誇らしい気持ちになりました。

これまでは「地元」と「海外」は全く別物だと思っていましたが、水野製作所の皆さんがタイで活躍している姿を見て、世界は意外と身近に繋がっているんだなど気づかされました。地元にある技術の凄さを再確認できたし、自分も将来、彼らのように場所を問わず活躍できるような人になりたいと強く刺激を受けました。

そして、最初のお話ではこの年で海外に行けるのは親に感謝したほうがいいとおっしゃっていて、本当にそのとおりだと思いました。また、ご自身の体験談などもしてくださり、本当にためになりました。



【株式会社アルプスツール】

工場内では、巨大な機械が精密に動いていて、そこから世界中のものづくりを支える装置が生み出されていました。案内の方から「ここで作られた製品が、タイだけでなく世界中の工場に運ばれていくんだ」という話を聞いたとき、自分の地元にある企業のすごさを改めて思い知らされました。坂城町で生まれた技術が、こうしてタイの産業を根底から支えているのを見て、なんだか胸が熱くなりました。

現場ではタイ人スタッフの方たちがテキパキと作業されていて、日本の技術を自分たちのものにして使いこなしている姿が印象的でした。坂城町の企業がタイの地でこれほどまでに信頼され、活躍している。そのリアルな現場を自分の目で見ることはできたのは、今回の研修で一番の収穫だったかもしれません。



○在タイ日本国大使館視察

在タイ日本国大使館は高い塀に囲まれており、大使館の建物に入るのは初めてだったので、入り口のセキュリティチェックから、今まで経験したことがないようなピリッとした空気感に驚きました。

そこで実際にタイと日本の橋渡しをしている外交官の方からお話を聞いたのですが、これが予想以上に面白くて刺激的でした。官僚と聞くと、正直「机に向かって難しい書類ばかり読んでいる、ちょっとお堅い人たち」という勝手なイメージを持っていました。でも、実際にお会いした方たちは、タイの政治や経済、さらには現地の人々の国民性までとても詳しく、熱意を持って日本のために走り回っていることが伝わってきました。



○おわりに

この3泊5日のタイ研修を通して、私が学んだ最も大きなことは、「世界は自分が思っていたよりもずっと身近で、そして面白い」ということです。都筑製作所、水野製作所、アルプスツールといった地元・坂城町の企業がタイの発展を支えている姿や、日本大使館で日本の代表として働く外交官の方のお話は、私の将来の視界を大きく広げてくれました。地元にある当たり前前の技術が、実は世界中で必要とされている「宝物」であること。そして、その技術や信頼を守るために、海を越えて情熱を持って働く大人たちがいること。その格好いい姿を間近で見たことで、「自分も将来、地元や日本のために、世界を舞台に活躍できるような男になりたい」という具体的な目標が芽生えました。この研修で手に入れた「とりあえずやってみる」という度胸と、多様な価値観を認める柔軟さを忘れずに、これからの進路選択や学校生活に全力でぶつかっていきたいです。最後に、このような貴重な機会を与えてくれたすべての方々に、心から感謝しています。



タイ国研修を通して

成澤 葵

研修期間中は、企業視察や現地での交流活動、施設見学など、さまざまな体験をしました。それぞれの活動を通して、タイの文化や価値観、生活の様子について理解を深めることができました。特に、実際に現地で体験することで、日本での生活との違いを具体的に感じる事ができ、新たな視点から物事を考えるきっかけとなりました。

また、言語や文化が異なる中で人と関わることの難しさと同時に、伝えようとする姿勢や相手を理解しようとする気持ちの大切さにも気づくことができました。普段の生活では当たり前を感じていることも、環境が変わることで改めてその価値に気づく場面が多くあり、自分自身の考え方や価値観にも変化が生まれたと感じています。

さらに、さまざまな経験を通して、自分の視野が広がるとともに、異なる文化を受け入れる柔軟な考え方の重要性についても学ぶことができました。今回の研修は、単なる体験にとどまらず、今後の生活や将来について考える上でも大きな意味を持つものとなりました。



【株式会社都筑製作所】

都筑製作所は、自動車部品を中心とした製品の製造を行っている企業であり、高い技術力と品質管理によってものづくりを支えています。

工場内では、複数の工程を経て製品が完成していく様子を見学しました。機械による加工だけでなく、作業の合間に何度も確認作業が行われており、何度もチェック工程があることが印象に残りました。このように細かな確認を重ねることで、高い品質が維持されていることを理解することができました。

また、1つの製品が完成するまでに多くの工程と人の手がかかっており、1日に数千個以上の製品が生産されていると説明を受けました。その中で、効率よく作業を進めるための工夫や、安全に配慮した設備が整えられていることがわかりました。海外という環境の中でも、日本と同様に高い品質を保ちながら生産を行っていることに強い感銘を受けました。

今回の企業視察を通して、ものづくりには多くの工程と工夫が必要であること、そして品質を守るためには細かな確認とチームワークが欠かせないことを実感しました。



【有限会社水野製作所】

有限会社水野製作所は約30年前に設立され、「生き残るために海外へ進出する」という目的のもとで事業を展開してきた企業です。このような海外進出の背景には、将来を見据えた経営判断と行動力があると感じました。

また、経営においては目標を明確に設定し、それに向けた段取りを大切にしておこなうことや、資金面ではリミットを定めて計画的に行動することの重要性について学びました。さらに、思いやりや感謝といった人との関わりを大切にしておこなうこと、その積み重ねによって信頼が生まれ、大きな宣伝を行わなくても自然と仕事が集まるといった点が印象に残りました。

加えて、常に興味や関心を持ち続けることの大切さや、人とのつながりを築くことで新たな機会が生まれることについても学びました。その中でも、「人に頼るだけでなく、まず自分を信じるのが大切である」という考え方が特に心に残りました。

今回の学びを通して、企業の成長には技術力だけでなく、人との関係性や考え方が大きく関わっていることを理解しました。また、価格やお金といった目に見えるものだけでなく、気持ちや信頼、環境といった目に見えない要素も重要であると感じました。



【株式会社アルプスツール】

株式会社アルプスツールは、工作機械に使用される工具の開発・製造を行っている企業であり、バーフィーダという、NC旋盤などの切削加工機に対して、人の手に代わり材料となる棒材を自動的に供給する機械装置の高い技術力によって精密なものづくりを支えています。多様なニーズに対応するために多くの種類の製品を取り扱っており、製造業において重要な役割を担っていることが分かりました。

見学や説明の中では、製品の品質を維持するための工夫について学ぶことができました。例えば、輸送時に木箱を使用したり、錆びないようにする工夫がされていたりするなど、細かな部分まで配慮されている点が印象に残りました。また、製品は用途や種類ごとに分類され、約6種類に分けて管理されているほか、色による識別も行われており、効率的で分かりやすい管理体制が整えられていることが分かりました。

さらに、現場では整理整頓が徹底されているだけでなく、社員の方々が丁寧に説明してくださるなど、とても温かい雰囲気のある会社であると感じました。このような働きやすい環境があるからこそ、高い品質の製品が生み出されているのだと考えました。

今回の視察を通して、ものづくりの現場では技術力だけでなく、細かな配慮や工夫、そして人との関わりや職場の雰囲気も重要であることを学びました。また、製造だけでなく保管や輸送の段階においても品質を守る工夫がされていることを理解しました。



【在タイ日本大使館視察】

企業視察の一環として、在タイ日本国大使館について学ぶ機会がありました。私はこれまで大使館や外務省の具体的な役割についてあまり知らなかったため、今回の説明は非常に新鮮で、多くのことを学ぶことができました。

説明の中で、大使館は日本と世界の平和と安全、そして繁栄を実現するために重要な役割を担っていることを知りました。主な業務としては、日本人の安全を守ることに加え、日本企業や在留邦人への支援、日本文化や情報の発信、さらに現地の状況を把握するための情報収集などが挙げられます。これらの活動を通して、日本とタイをはじめとする国々との関係が維持・発展していることを理解しました。

また、大使館は単に日本人を支援するだけでなく、日本という国の考え方や文化を海外に伝える役割も担っており、国と国との信頼関係を築くうえで欠かせない存在であると感じました。さらに、現地の情報を正確に把握し、それを日本に伝えることによって、国際社会の中での適切な判断や行動につながっていることも学びました。

今回の学びを通して、大使館は日本と世界をつなぐ重要な存在であり、国際社会において欠かせない役割を果たしていることを理解しました。また、自分自身も今後、国際的な視点を持ち、物事を広い視野で考えることの大切さを感じました。



今回のタイ国研修を通して、普段の生活では得ることのできない多くの貴重な経験をすることができました。企業視察や現地での交流、大使館での学びなどを通して、異文化への理解を深めるとともに、自分自身の視野を広げることができたと感じています。

特に、ものづくりの現場における工夫や努力、そして国際社会の中で日本が果たしている役割について学ぶことで、これまでとは違った視点から物事を考えることができるようになりました。また、実際に海外で生活し、多くの人と関わる中で、文化や価値観の違いを受け入れることの大切さを実感しました。

さらに、今回の研修では、現地で出会った友人と一緒にショッピングをしたことも強く印象に残っています。言葉や文化の違いがある中でも、同じ時間を共有し、楽しく過ごすことができた経験は、とても貴重な思い出となりました。このような体験を通して、人と人とのつながりの大切さを改めて感じました。

また、社会問題を自分のこととして捉える意識や、一人一人の行動や考え方が大切であることにも気づくことができました。日頃から時事問題や社会問題に関心を持ち、主体的に学ぶ姿勢を持つこと、そして時間を有効に使いながら努力を続けていくことの重要性を改めて感じました。また、人に優しく接することはもちろん、自分自身にも余裕を持って向き合うことの大切さも学びました。

今回の研修で得た経験や学びを今後の生活や将来に活かし、自分自身の成長につなげていきたいと考えています。



タイ国研修

宮崎 星七

○はじめに

私は、タイ国研修を通じてタイと日本の文化の違いを体感し、雰囲気や食べ物、生活の様子を直接見て感じたいと思っていました。聞くだけでは分からないタイの魅力を知るとともに、改めて日本の良さを感じたいと思い、3月22日から3月26日までの3泊5日のタイ国研修に参加させていただきました。

私は初めての海外だったため、入国時には無事に入国できるかという緊張と不安な気持ちでいっぱいでした。無事に入国検査を通過し、税関チェックを終えて空港から出ることができました。みんなの第一声は「暑い！」でした。タイの夏は3月から5月が最も暑い時期で、私たちが訪れた時期も非常に暑く、日本との気候の違いを強く感じました。

現地ではバイクの数が非常に多く、絶えず走っている様子や二人乗りが主流であるように見えたことが印象的で、インパクトのある瞬間でした。日本ではあまり見かけない光景だったので強く記憶に残っています。さらに、タイの信号機は青になるまでのカウントダウン式が主流でした。青になるタイミングがわかるため、ドライバーが事前に準備を整える時間ができ進んでいる仕組みだと感じました。また、車同士の距離がかなり近く、最初は危険に感じましたが、周囲の人達は慣れているのか問題なく走行していて、事故が起きていないことに不思議さを感じました。

○企業視察

今回はタイ進出企業である都筑製作所・水野製作所・アルプスツールの三社、そして在タイ日本大使館で研修をさせていただきました。

【都筑製作所】

都筑製作所は、主に自動車や建設機械の重要部品を製造する会社です。タイで生産している機械加工部品は、車のエンジン、タイヤ周り、エアコンのコンプレ

ッサーだそうです。

工場の中に入って見て感じたことは、日本で見た時よりも機械の大きさが大きく、より精密な機械で加工しているということでした。また、タイではトラックの需要が高いことから、トラックの部品を大量生産するために、インドネシアから輸入をしているそうです。しかし、なぜインドネシアから輸入をするのか聞いてみたところ、インドネシアから輸入をすることでより安くものが調達できると教えていただきました。そのため、コストを抑えることができるそうです。このことから、都筑製作所ではすべての自社で大量生産するのではなく、別の拠点から輸入して取り入れることで、効率よく生産を行っていることがわかりました。また、需要の高い製品に合わせて生産体制を柔軟に変えている点も、タイ都筑製作所の特徴だと感じました。

こうした工夫によって、コストを抑えながらも安定した供給を実現し、単に製品を作るのではなく「どのようなものが求められているのか」を考えながら生産することが企業にとって大切であると感じました。



日本ではミニトマトの収穫ロボットやクロスケという電気自動車の開発も行っており、日本では発明を取り入れた生産の仕方をしているのかなと思いました。

【水野製作所】

水野製作所は、樹脂を溶かして製品を大量生産する際に必要となる「金型」を製作している会社です。金型は製品の形や品質を左右する非常に重要なものであり、ものづくりの基盤となる存在だと感じました。

実際に現場を拝見させていただいたところ、一人ひとりに持ち場があり自分の役割をしっかりと理解し、責任をもって作業している様子が伝わってきました。特に、金型にバリがないか、製品に不備がないかを細かく確認する工程では、顕微鏡のような機器を使いながら一つ一つ自分の目で丁寧にチェックしており、品質を守る高い意識が感じられました。このような確認作業の積み重ねが、高品質な製品づくりにつながっているのだと思いました。

また、射出成形という方法を用いており、溶かした樹脂を金型に流し込み、冷却して固めて製品を作っていることも学びました。さらに、製造過程で出た不要な部分の樹脂は再度溶かして再利用している点から、資源を無駄にしない工夫がされていることがわかりました。こうした取り組みは、SDGsの観点からも環境に配慮したものづくりであり、現代の企業にとって重要な姿勢だと感じました。加えて、水野製作所では製品の品質や使いやすさを重視しており、価格を安易に下げるのではなく、価値の高い製品を提供することを大切にしていることを学びました。最初は、値段を下げないと売れにくいのではないかと思いました。しかし、実際には多くの企業から求められているとのことで、品質の高さや信頼関係の重要性を実感しました。このことから、企業が成長していくには、単に安さを追求するだけではなく、品質や信頼を大切にし、長期的な関係を築くことが重要であると学びました。

水野製作所を経営している日本人は水野さん一人でした。海外で働く中で、通訳できる人がいない状況で、どのようにコミュニケーションをとっているのか疑問に思いました。しかし水野さんのお話によると、コミュニケーションは言葉だけでなくジェスチャーや表情、伝えようとする姿勢によって相手に思いを伝えることができるそうです。



【アルプスツール】

アルプスツールでは、ツーリングといった機械工具をつなぐ部品や、バーフィーダーといった金属の材料を自動で機械へ供給する装置を製造しています。これらは目立つ製品ではありませんが、ものづくりの現場を支える重要な役割を持っており「縁の下の力持ち」のような存在だと感じました。

社内見学をしてみて、最初に気づいた相違点は、バーフィーダーの数が日本よりも少ないということです。日本では様々な種類が製造されているのに対し、タイのアユタヤ工場では5種類に絞って生産されていました。種類を減らすことで大量生産がしやすくなり、効率よく製造しているのだと感じました。

また、バーフィーダーの機械点検をする際に、確認した部分はマーカーで色付

けをする工程を丁寧に行っていたことも印象に残りました。このような取り組みから、品質を安定させるには、細かい確認作業の積み重ねが大切であることを学びました。

またバーフィーダーを船で輸送する際には、湿気によって錆びたり輸送中の揺れや衝撃によって破損してしまったりする可能性があります。そのため、木箱へ入れて梱包し、証明書を貼るなど、輸送中のリスクを最小限に抑える工夫がされていました。この工程は、製品を守るためだけでなく、受け取る側が安心して使用できるようにするための配慮であり、製品の品質と同じくらい信頼性を大切にしているのだと思いました。

見学後にはアルプスツールの方からタイ語でのあいさつを教えていただきました。初めて聞いた言葉で、覚えるのに苦戦しましたが、実際に現地で使ってみると、相手との距離が縮まったような気がしました。特に、タイ語であいさつをすると笑顔で返してくれる人が多く、優しい方々がたくさんいるなと感じ、心温まる瞬間でした。



あいさつは人と人の関係を深める大切な手段だと、改めて実感しました。

【在タイ日本国大使館】

在タイ日本国大使館では、外務省の仕事内容について詳しく教えていただきました。まず、大使館に入る際にはスマートフォンやスマートウォッチなどの電子機器を預ける必要があると説明を受けました。これは、盗聴や盗撮による情報漏えいを防ぎ、重要な情報を守るためだそうです。実際に厳重なセキュリティ体制がとられており、日本の安全を守る現場の緊張感や使命感を感じました。あまり入ることのできない大使館を見学できたことにも特別感があり、貴重な経験をさせていただいたなと思います。

私は、これまで外務省の仕事に対して、きれいなスーツやドレスを着てシャンパンを片手に海外の人と華やかに交流するというイメージを持っていました。し

かし実際には、日本と世界の平和や安全、そして繁栄を実現させるために様々な問題について話し合い、解決に向けて努力する仕事であることを知りました。主な仕事内容は、現地の人々や関係者と話し合いながら、日本の課題解決に向けた取り組みを考えることが挙げられます。そのためにも、コミュニケーション能力だけでなく、情報収集力や分析力、そして判断力も必要とされることを学びました。どのようにして相手から情報を引き出すのかという点にも興味を持ちました。

また、身近な例として映画の放送や輸出入に関する判断に関わっていると知り、外務省の仕事が私たちの日常生活にもつながっていることに驚きました。

例えば、鬼滅の刃を日本で放送するかどうか、どのくらい上映するのかなど、私たちが普段当たり前のように見ている映画にも外務省が関わっていると知り、その役割の大きさと世の中の奥深さを感じました。また、外務省はさまざまな相談にも対応しています。例えばドッグフードの価格が高騰している中で、どのように輸入すれば安く抑えられるのかを一緒に考えるなど、人々の生活に寄り添い支えている仕事であると知り、とても魅力的だなと思いました。

また、私たちが今後大切にしていけるべき考え方について教えてくださいました。どのような職に就くとしても、勉強は欠かせないものであり、自分のなりた姿や目標を実現させるためには、時間の使い方が重要であることを改めて感じました。時間は有限だからこそ、日ごろから計画的に行動し、一日一日を大切に過ごしていきたいと思いました。

さらに外務省の仕事はタイプが悪いといった面がある一方で、やりがいのある仕事だからこそ続けられると伺い、私も将来は自分なりの「やりがい」を見つけられるような職に就きたいと思いました。

最後に、外務省のお仕事について教えてくださいました久保木さんが「人にやさしく、自分にもっと優しく」という言葉を教えてくださいました。仕事をする事は大切ですが、お金では買えないものがあるということを忘れずに、人との関わりや経験を大切にしていきたいです。



○おわりに

今回のタイ国研修を通じて、タイと日本の企業の違いを視察し学ぶことができたり、日本の文化とは違った魅力を直接見て感じることもできたりしました。どの会社も日本人の割合が少なく、日本語や英語が通じない場面では、ジェスチャーや伝えようとする姿勢が重要であり、それが現地で円滑に運営していくための大切な要素であると感じました。そして、ものづくりの現場では一つ一つの作業を丁寧に行うことと、責任を持って取り組む姿勢が、製品の質を支えていると実感しました。

また、現地の学生との交流では、英語やジェスチャーを使いながらコミュニケーションをとり、ショッピングモールを一緒に回りました。私は英語が得意ではありませんが、いわゆる「出川イングリッシュ」のように積極的に伝えようとすることで、意思疎通ができたことがとても印象に残っています。

現地の学生たちは日本語がとても上手で、私も英語をもっと勉強して覚え、海外の人と自然に会話ができるようになりたいと強く感じました。また、ショッピングモール内にある「Bear house」というドリンク専門店でキャラメルタイティーを飲みました。日本ではなかなか味わうことのできない独特の風味や香りを感じることができ、甘さの調節もできるためとても飲みやすく印象に残っています。

今回の研修を通して、これまで知らなかった世界や新しい視点に触れることができました。そして、3泊5日の充実した時間を過ごすことができました。この経験は、多くの方々の支えや現地で温かく受け入れてくださった方々のおかげで成り立っていると感じています。今後は、この貴重な経験を活かし、自分にとってのやりがいを見つけられるような職業に就くことを目標に、日々努力していきたいと思います。



タイに行って学んだこと

吉川 花梨



○はじめに

私たちは、3月22日から3月26日まで3泊5日のタイ国研修に行ってきました。私は、外国に行くこと自体が初めてで何もかもが、新鮮でした。飛行機に乗るだけで、ドキドキ、わくわくしていました。それと同時に不安な気持ちもありました。タイの学生と交流するという機会も設けられていたので、学生さんたちと仲良くできるか、意思疎通ができるか、タイの料理を食べられるかなど、様々な不安を抱えながら研修旅行に向かいました。

一日目は日本からタイへの移動をして、シラーチャに泊まりました。二日目は、企業視察とライトアップ鑑賞をして、アユタヤに泊まりました。ライトアップ鑑賞では、三日目に行くアユタヤ遺跡のライトアップを見ました。イルミネーションのようなライトアップではありませんでしたが、とてもきれいでした。また、タイの市場のような場所もライトアップされていて、とても華やかでした。ステージで踊りのようなものも行われていて、夏祭りみたいでした。

三日目は、アユタヤ遺跡の観光と、象乗り体験をした後、在タイ日本国大使館に行きました。この日は、首都バンコクで宿泊しました。象乗り体験では、大き

な象に乗って、10分くらい道路を歩きました。像に乗るのは初めてで、高くて少し怖かったです。意外と楽しく、臭くありませんでした。

四日目は、バンコク市内の観光と、タイの学生さんたちとショッピングモールを散策しました。その後は空港に向かい、帰路につきました。タイの学生さんたちとは、楽しくショッピングをすることができました。たくさん会話をして、タイでの流行などを教えてもらいました。また、タイでおすすめの食品、コスメ用品なども教えてもらいました。日本に帰る場面では、飛行機が2時間の遅延をしていたため、夜中22時出発のはずが、夜中の0時に出発することとなり、とても眠かったです。

企業視察の移動には、専用車を使いました。専用車は観光バスを貸し切りで使わせていただきました。40人乗りくらいの車を、12人で使ったため、とても広々と使うことができました。

ホテルは、5日間合わせて、三種類のホテルに泊まりました。シラーチャ、アユタヤ、バンコクのホテルに泊まりました。シラーチャのホテルは、割とコンパクトなお部屋でしたが、きれいな内装で、バスローブがおいてあり、快適でした。アユタヤのホテルでは、ゴキブリみたいな虫が2匹くらいいて、びっくりして、叫んでしまいました。ですが、部屋の内装は私の好みだったので、とても素敵なホテルだと思いました。バンコクのホテルはとても大きくて、部屋の内装もスイートルームのように広くてびっくりしました。やはり首都に行けば、値段はそれなりにかかるかもしれませんが、良いホテルに泊まれることは、日本とあまり変わらないのかなと思いました。



○企業視察

【株式会社都筑製作所】

一社目に、株式会社都筑製作所さんにお邪魔しました。日本語通訳者の方もいて、とてもあたたかく出迎えてもらいました。株式会社都筑製作所さんでは、たくさんの種類の部品を制作していました。主に、自動車、工業部品の生産を行っ

ています。日本にある工場では、自動車約 8000 台分の部品を 1 日で製造しているようで、タイにある工場では、自動車約 600 台分の部品を 1 日で製造しているようです。製造量では、日本にある工場の方が圧倒的に多かったです。

自動車部品では、主に、エンジン、タイヤ周りの部品を生産しているようです。またエアコンの部品も生産しているようです。都筑さんが作っている部品は写真でしか見られませんでした。とても小さく、精密に製造されていました。この部品が完成するまでには、たくさんの努力と試行錯誤があったのだらうと思いました。

都筑さんの工場の内装は、事務作業をする事務所のようなところと、組み立てなどを行う工場に分かれていました。工場は、第一工場と、第二工場がありました。第一工場では、売り上げが高くたくさん生産する必要のある部品を保管していました。輸入品のほとんどは、インドネシアにある都筑の工場から輸入されてきたものでした。第二工場では、機械などがたくさん置いてありました。各機械ごとに作る部品も仕事も違いました。一番びっくりしたのは、日本の工場でも同じような仕組みになっていたのですが、注文した会社ごとに専用の機械があることでした。タイの工場では、工場内に個室があって、その中で組み立てをしていました。タイの温度やゴミから守るために、個室になっているようです。都筑の工場では、フォークリフトなどで部品の箱などを運ぶことがあるため、工場内の床が色分けされていました。緑色の床と青色の床があり、緑色の床は、主にフォークリフトが通る道とされていて、青色の床は、人が歩くための道とされていました。



【有限会社水野製作所】

二社目に、有限会社水野製作所さんに向かいました。都筑さんから、水野さんまでは、2時間くらいの移動時間がありました。そのため昼食を水野さんで提供していただきました。社員用の食堂で、ガパオライスを提供していただきました。目玉焼きが乗っていて、とてもおいしかったです、少し辛かったです。



有限会社水野製作所さんでは、射出成形機を使って、小さい部品を作っていました。射出成形機を使って部品を作る会社さんはたくさんあるそうですが、水野さんでは、ほかの会社とは金型の作り方が違うそうです。

日本とタイの工場を見学してみて思ったことは、工場の大きさが全然違うことです。日本では、山の近くのこじんまりとした小さな工場で、少数精鋭ながら、一生懸命運営していましたが、タイの工場は、日本の工場よりももっと大きく、従業員数も多く、工場部品を作っている人もいれば、事務作業をしている人や、食堂でご飯を作っている人もいました。

タイの工場が設立されたきっかけは、日本の景気が悪くなっているときに、社長さんが、このままじゃまずいと思い海外進出を決意したことだそうです。その時に、たまたま工場を作った場所がタイだったそうです。タイの工場は、設立30年の今でも日本人は社長さん一人だけだそうです。タイの社員さんと社長さ

んは、言語による意思疎通ができないこともあるそうです。そんな中で仕事をしてきた社長さんは、私たちに、言語による弊害など気にせず、相手が何を話しているのかを感じる事が大切だということをお話してくれました。

タイにある工場では、日本の工場とは比べ物にならないくらい利益が出ているそうです。そのおかげで、日本にある工場も運営できているそうです。それでも余ったお金は、タイの病院などへの資金援助に使っているそうです。奨学金のためにもお金を使っているそうです。社長さんは、タイで繁盛できたからタイに恩返しをするつもりで、資金援助などを行っているとお話していました。

水野の社長さんからは、人とのつながりの大切さ、夢を叶えるためによく考えて行動することの大切さを学びました。改めて、コミュニケーションの大切さや、将来についてよく考えることの大切さを実感する良い機会でした。そして何よりも自分を信じることの大切さを教えていただきました。

【株式会社アルプスツール】

三社目に、株式会社アルプスツールさんにお邪魔しました。そして、アルプスツールさんで働いている女性の方々に、あたたかく出迎えてもらいました。みなさん笑顔が素敵でとてもあたたかい人たちでした。



株式会社アルプスツールさんでは、金属を加工するための部品と装置を作っています。主にツーリングとバーフィードについて詳しく説明していただきました。

タイのアユタヤ工場では、バーフィーダをたくさん生産していました。日本の工場でも生産していましたが、その倍くらいの量を生産していました。バーフィーダは使う材料や材料の形状などによって、中の機械が変更されます。そのため、作り置きされたものを、注文してくださった人に輸送するのではなく、注文した人の、要望に合わせて、一から作っているそうです。私たちは、タイのアユタヤ工場に行ったので、バーフィーダが生産されているところを見てきました。タイのスラナリ工場では、ツーリングをたくさん制作しているそうです。私たちは実際に見ることはできませんでしたが、スラナリ工場から社長さんが来てくださったので、ツーリングのことについても知ることができました。

アルプスツールさんで働いているタイ人のみなさんはとてもやさしく、ニコニコしていました。会社の雰囲気も明るくて、仲がよさそうでした。アユタヤ工場の社長さんは日本人の方でしたが、スラナリ工場の社長さんはタイ人の女性でした。とても丁寧に説明してくださったので、とても分かりやすかったです。別れ際には、タイ語でのあいさつや、お礼の仕方なども教えてくれました。

○在タイ日本国大使館視察

在タイ日本国大使館は、頑丈な塀に囲まれていて、見張りの人もいるほど厳重な警備でした。日本国大使館では、日本で行われていることをタイに知ってもらうための仕事と、経済的に日本が困らないように裏から支える仕事、タイとの関係を保つ役割もあるそうです。日本のことをタイの人たちに知ってもらうために、ポスターを貼ることもあるそうです。そのためのお願ひも行っているそうです。また、大使館は、外務省から指示されたことを行い報告する、ということも行っているそうです。さらに、タイに住む日本人の方が困ったときのサポートなども行っているそうです。パスポートが紛失してしまった際にも、助けてくれるそうです。もし外国で困ったことがあれば、その国にある日本国大使館に行けばよいということを学びました。

大使館では、外務省から指示されたことを行うという仕事をしてはいますが、外務省についてわからない人も多いため、大使館の方が外務省について簡単に説明してくださいました。

外務省とは、主に外交交渉をすることが役割だそうです。例えば、高市総理大臣にやりたいことがあったとしたら、それを実現させるために、タイにいる外交官が、タイの人たちとお話をするそうです。外交の仕事は決して簡単なお仕事ではありません。ただタイの偉い人たちと食事をするだけが外交ではないそうです。食事をしながら、タイの総理大臣が今度誰になるのか、総理大臣の人柄、考え方など様々な情報を収集して報告することも、外交の仕事だそうです。

外交官の人でも、タイの辛い料理は好きではないそうです。タイの人たちは、

日本人に対してとても親切だそうです。私も実際にタイの人たちと少し交流する機会が何回かありましたが、とても親切でした。日本と違って、タイでは車を持っている人が多いそうです。車検がなかったり、都市部まで線路が引かれていなかったりすることが、理由の一つだそうです。そして、何より都市部に住む人が極端に少ないそうです。都市部に向かう高速道路では、渋滞がひどく、全然進まないそうです。長期休暇などは特に混雑するそうです。私たちも実際にバンコクへ移動する際に高速道路を利用しましたが、とても混んでいました。



○おわりに

私は、企業視察やタイの学生さんたちとの交流を通して、新しく学べたことがたくさんあります。それは、今後の人生にも役立つところがあると思います。進学や就職をするうえでも、海外での経験を活かした就職先選びや、自分が今後どのようなことをしていきたいのかを見つめ直すきっかけになるとと思います。何より、海外に行くという選択をしたことが一番の強みだと思います。生きていく中で海外に行く機会はとても少ないと思います。そんな中で、海外に行って、タイ独特の文化や考え方を若いうちに感じられたことは、とてもいい経験になったと感じています。

また、最初は不安な気持ちでいっぱいでしたが、タイで過ごしていくうちに、コンビニなどで日本にはないような食べ物を買って食べることもできました。見た目は少し派手だったり、おいしくないように見えたりしても、実際に食べてみるとおいしいものばかりで楽しかったです。言語が通じなくても、なんとなく英単語だけでも会話できるということを、タイの学生さんたちと交流をして感じました。



最後になりますが、この企画を考えてくださった坂城町役場の企画政策課の方々、並びに、私たちが無事に行って帰ってこれるようにサポートしてくださった近畿日本ツーリストのガイドの方々、そして送り出してくれた両親に感謝申し上げます。

～坂城町タイ国研修旅行を通して～

若林 昂来



はじめに

私がこの坂城町タイ国研修に参加したいと思ったきっかけは、父が坂城町で製造業の会社を営んでいることです。地域企業が海外でどのような活動を展開しているのか、また、現地での取り組みを直接見て、地域企業の国際的な役割などを学びたいと思いました。

そして、私自身の英語の語学力も、現地の高校生との交流を通して、試してみたいと関心を持ったことが、参加へのきっかけでした。

タイ国のことはよく知らなかったもので、最初のイメージは、治安が悪くスリが多いなど、あまり良いものではありませんでした。だからこそ、実際に行って自分の目で確かめてみたいという気持ちになりました。しかし、日本との気温の差があるので不安ばかりでした。



企業観察

【株式会社都筑製作所】

都筑製作所は、タイのアマタナコーン工業団地に所在しており、主に車のパーツを製造していました。タイでは建設関係の仕事が多いそうで、トラックの売れ行きがいいそうです。

都筑製作所は、製造時の二酸化炭素の排出量を少なくする取り組みをしており、環境に配慮していることが分かりました。

2年程前にタイ政府が国民の借金に厳しくなったことにより、若者の車購入者が減少し、200万台ほど売れていた車が150万台ほどに減少してしまったそうです。



【有限会社水野製作所】

水野製作所ではプラスチック製品をたくさん製造していました。
タイで創立して30年になり、タイに工場を作った理由は、日本では生き残れないと考えて海外進出しようとした中で、偶然選ばれたのがタイだったそうです。

水野製作所では現地の学生にたくさんの寄付をしているそうです。その理由はタイへ進出して、ここまで大きくなれたのはタイの方のおかげだから、恩返しをしているとのことでした。それを聞いて、感謝の気持ちを忘れず、恩返しをしている水野製作所さんがとても素晴らしいと思いました。

お昼に社員食堂にて、ガパオライスをご馳走になりました。とても美味しかったです。現地の社員食堂で食事をする機会も貴重でした。



【株式会社アルプスツール】

アルプスツールのタイ工場は2箇所あり、工場から工場の距離が285キロも離れており、車での移動時間は3時間30分かかるとのことでした。そして、その工場では、鉄を削ったり加工したりして、工作機械に取り付ける部品などを作っていました。

日本で製造している部品数が21種類、タイで製造しているのは、5種類ということでした。日本の工場よりもタイの工場の方が大きく感じました。そして、私たちを案内してくださったスタッフの方々の対応がとても親切で、私たちが歓迎されていることがとても印象的で嬉しかったです。



在タイ日本国大使館視察

大使館では、タイのことや大使館はどんな仕事をしているのかなどのお話を聞きました。情報をまとめて、記者の人に新聞記事にしてもらうことや、外務省は海外との交流に関わる仕事をしていることが分かりました。

私は大使館の方に、タイに来て車と渋滞の多さに驚いたので、なぜタイの人は車を持っている人が多いのですかと質問をしました。

その答えは、駐車場が多いこと、バンコクなどの都市部に行くには車が必要不可欠であること、車検制度がまだない、ことでした。車検制度がないことには驚きました。定期的な整備が行われないことに、少し怖いと思いました。タイに行く前、自分でも少し大使館について調べていきましたが、現地で話を聞くと、私の知らないことばかりでした。

大使館の方から、「人生はずっと勉強の繰り返しなので、今から勉強に対しての免疫をつけ、時間を有効に使い、人にやさしく、自分にもっと優しく」という人生のアドバイスをいただきました。これからの大学進学に向けて、勉強に行き詰まった時はこの言葉を思い出し、時間を有効に使いながら、勉強への免疫をどんどんつけていきたいと思いました。



おわりに

この研修に参加してみて、現地に行って体験してみないと分からないことがたくさんあると改めて感じました。

行く前は、タイは治安が悪そう、汚そうなどと、行ってもいけないのに決め付けをしていました。しかし、会計の時や困っている時に日本語で話してくれて、タイの方はとても親切に接してくださり、楽しく過ごすことができました。

私は、父の会社で幼い頃から製造業の現場は見てきていたつもりでしたが、海外の工場を視察し、日本の工場との規模の大きさなど日本との違いをこの目で見てきて、視野の広さや考え方が、出発前より少し変わったように思います。

英語の語学力を試してみたいという点については、タイの方は日本語で話しかけてくれたのに、私は自分の思いをなかなか英語にできず、スマホの翻訳機能を使わないと会話ができないことの方が多かったのも、もっと英会話の力をつけたいと思いました。現地高校生との交流には女子高校生しかいなくて、男子高校生とも話をしてみたかったのが少し残念でしたが、タイの高校生がとても親切にしてくれたので、楽しい時間を過ごせました。

帰りの飛行機が遅れて予定が変更というハプニングもありましたが、これも海外旅行の醍醐味だと思いました。

この研修を企画してくださった坂城町役場の皆さん、現地で安心して過ごせるようにご配慮いただいた旅行会社の皆さんありがとうございました。

改めてこのタイ国研修は、私のこれからの人生において、いい経験となりました。この研修で得たものが無駄にならないよう、今は何をするのが正解かはわかりませんが、この先、坂城町や坂城町の工業の役に立つことができるといいなと思いました。



Thailand

君の知らない

世界へ。

令和8年

3/22～3/26

【3泊5日】

視察予定企業(五十音順)

(株)アルプスツール様

(株)都筑製作所様

(有)水野製作所様



坂城町高校生タイ国研修

坂城町在住または
坂城町の高校に通う
高校生のみなさん！

参加者を募集しています。詳しくは裏面をご覧ください。

応募締切 令和7年12月12日(金)

お申込み・お問い合わせ先

坂城町役場 高校生タイ国研修事業事務局

(役場2階企画政策課 企画調整係内)

T E L : 0268-75-6211 (直通)

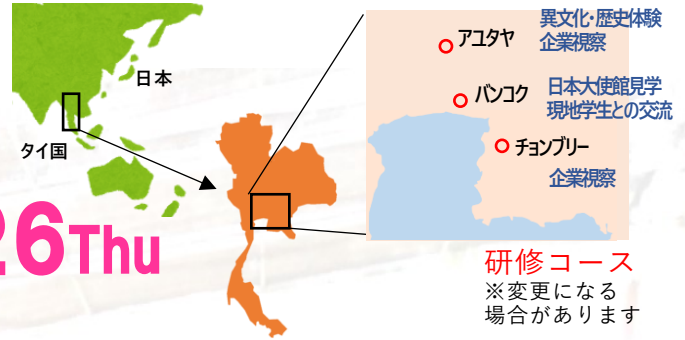
0268-82-3111 (代表)

E-mail : k-chousei@town.sakaki.lg.jp



令和7年度 坂城町高校生タイ国研修

令和8年 3.22Sun▶3.26Thu
バンコク・アユタヤ・チョンブリー



坂城町では、町内の高校生を対象に、海外展開する坂城町の企業を現地で視察し、坂城町の底力を学ぶとともに、タイの学生や企業で働く皆さんとの交流を通じて、豊かな国際感覚を養ってもらうため、「坂城町高校生タイ国研修」を実施しています。

この春休み、世界のこと、学び育ったふるさと坂城町のこと、学んでみませんか？

研修概要

- タイ進出町内企業
3社の現地工場視察
- 在タイ日本国大使館見学
- 異文化・歴史体験（世界遺産見学）
- 現地学生との交流（英会話経験）

参加者募集要項

- ◆研修の目的 将来の坂城町を支えていく町内在住の高校生や町内の高校に通う高校生に、海外で活躍する町内企業の視察のほか、現地の学生との交流や歴史・文化などの異文化交流を通じて、国際感覚を養い、坂城町、更には日本を再認識するとともに、将来展望を考える機会とする。
- ◆研修期間 令和8年3月22日（日）～3月26日（木） 3泊5日（機中1泊）
- ◆募集定員 坂城町在住の高校生又は坂城町の高校へ通う高校生 8人
- ◆応募資格 (1) 応募時に、坂城町在住で高等学校に在学中又は町内の高等学校に在学中であること
(2) 事前研修及び帰国報告会等に参加できること
(3) 心身ともに健康で、タイ国での研修意欲が旺盛であること
(4) 主催者の計画や引率者の指示に従って規律ある行動や団体生活ができること
(5) 保護者の同意及び学校の承認があること
- ◆参加費 110,000円
【旅行代金に含まれるもの】※一部体験学習等に伴う経費を除く
・航空運賃 ・宿泊料金 ・食事代金 ・観光料金 ・企画料金 ・空港施設使用料
・手荷物運送料金（航空会社規定料金） ・添乗員経費 ・現地空港税 ・日本国内交通経費
【旅行代金に含まれないもの】※参加者が各自で支出する経費
・海外旅行傷害保険料 ・パスポート取得費 ・個人的性質の諸費用（電話、追加飲食代等）
・旅行準備のための経費 ※別途燃油サーチャージ代を負担いただく場合があります。
- ◆応募方法 タイ国研修事務局〔坂城町役場企画政策課〕及び 町 HP で配布する申込書に必要事項を記入し、事務局に直接持参するか、又は郵送により提出する。
【坂城町 HP：<https://www.town.sakaki.nagano.jp>】
- ◆応募締切 令和7年12月12日（金）
- ◆選考方法 書類による審査〔参加志望動機〕
- ◆その他 帰国後、1か月以内に指定する報告書を提出すること



Facebook で過去の研修の様子をご覧になれます 🐾



お申込み・お問い合わせ先

坂城町役場 高校生タイ国研修事業事務局
（役場2階 企画政策課 企画調整係内）

T E L 0268-75-6211(直通)

0268-82-3111(代表)

E-mail k-chousei@town.sakaki.lg.jp

令和7年度 坂城町高校生タイ国研修事業に係るスケジュール

| 月 | 内 容 |
|-----------------|--|
| 9月24日 | 令和7年度 タイ国研修プロジェクト会議 <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修内容について〔研修行程の検討〕 ・ 参加者募集について〔募集要項の検討〕 |
| 10月～12月 | 参加者募集及び申込受付開始 <ul style="list-style-type: none"> ・ 町ホームページ、広報11月、12月号 及び ポスター配布等による周知 参加申込期限 12月12日（金）（1か月半の申込期間） ・ 研修事業参加希望者に対する学校承認依頼について |
| 12月23日 | 令和7年度 第2回タイプロジェクト会議 <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者選考 → 参加者決定 決定した参加者への通知 |
| 1月21日 | 参加者事前説明会（研修に向けての手続き等） <ul style="list-style-type: none"> ・ 旅券（パスポート）取得申請 及び コピーの提出 ・ 海外旅行保険の申込み ・ 研修参加費の納入 |
| 3月10日 | 研修出発前勉強会 （研修先（視察先）企業事前勉強会、出発前最終確認） |
| 3月22日～ 3月26日 | タイ国研修〔3泊5日〕 |
| 5月21日 | 参加者報告会の開催 |